

被災者支援体制の強化特別委員会 議事録

日時：令和7年12月17日（水）

午後3時00分

場所：議会会議室

○委員長（坂井美穂）

ただいまから、被災者支援体制の強化特別委員会を開催します。協議題1「調査事項について」を議題とします。先日の委員会で、人と防災未来センターへの入館は任意となりましたが、それを補完する映像を皆さんで視聴したいとお伝えしておりました。本日、はじめに東日本大震災発生時の映像を視聴し、震災時の状況をイメージした上で今後の視察に臨んでいければと考えております。約4分半の映像になりますが、この激しい揺れや浸水の状況下で、怪我をせずに支援活動や生活ができるかどうか、という視点でご覧ください。

（東日本大震災発生時の映像を視聴）

○委員長（坂井美穂）

視聴ありがとうございました。報道等でご覧になったこともあるかと思いますが、これほど多方面から同時に記録された映像を改めて見ることで、当時の緊迫感を感じていただけたかと思います。それでは次に、1月26日に控えております岡崎市の視察に向けて、質問事項を協議する前に、災害ケースマネジメントについて大阪公立大学の菅野拓氏の講義を視聴いただきたいと思います。

（菅野拓氏による講義「災害ケースマネジメントの必要性と構造的問題」を視聴）

○委員長（坂井美穂）

講義の視聴ありがとうございました。この内容を受けまして、岡崎市視察に向けた事前質問事項の案を、私と副委員長で作成いたしました。これをたたき台にご意見をいただきたいと思います。最新の法改正では、福祉サービスの提供が明文化されるなど手厚くなっていますが、現場でどこまで実行するかは自治体の裁量に委ねられています。このあたりをしっかりと勉強し、提言につなげたいと考えています。

○副委員長（渡邊昭司）

9月29日の資料にもあったように、数ヶ月、数年経った後の問題解決に向けた取り組みの一つがこの仕組みです。そのような観点で岡崎市の事例を見ていければと思います。

○田中嵩久委員

岡崎市では実際に大規模災害でこの仕組みを運用した実績はないかと思います。ですので、質問③の「どう支援につなげているか」という表現は「仕組みをどう構築しているか（つなげていくか）」という、今後の運用を見据えた書き方に精査すべきです。また、平時の社会保障をどう災害時につなげるかが重要ですので、民間企業やNPO等との日常的なコミュニケーション（訓練や連絡体制）がどう取られているか、現状と課題を問う項目を追加すべきではないでしょうか。

○委員長（坂井美穂）

ありがとうございます。日常のコミュニケーションについては非常に重要ですので、項目②に追記し、項目③も「つなげていくのか」という表現に修正いたします。

○有留麻由委員

本市の要支援者名簿に関連して、多職種連携だけでなく、もっと身近な地域の方々（地元の自治会や民生委員等）との連携や運用についても、岡崎市ではどのようになされているか、質問に含められると良いと思います。

○地域福祉課長（山本勇夫）

本市でも個別避難計画の策定を進めていますが、現状は避難するまでの計画が主です。今回議論しているのは、その後の避難生活支援の部分ですので、岡崎市が地域の方々とどのような役割分担をしているかは確認する価値があります。

○委員長（坂井美穂）

承知いたしました。ご意見を反映した質問事項をまとめ、岡崎市へ送付させていただきます。次に県内視察の行程について、事務局より説明させます。

○事務局

移動は、10人乗りのワゴン車および7人乗りの公用車の2台です。市役所ロータリーを12時30分に出発します。14時から2時間視察を行い、17時5分に市役所帰着の予定です。

○委員長（坂井美穂）

全体を通して他にご意見はありませんか。

【「なし」との声あり。】

ないようですので、以上で特別委員会を終わります。

散会 午後4時05分